

【2】平成30年度各学校における調査研究の概要

1) 就労支援

① 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○「職業基礎 A」から「職業基礎 B」への発展的な学習

1 目的・ねらい

職業に従事することを目標とし、各職種に必要とされる基礎的、基本的な知識と技術について理解させ、正しい勤労観、職業観を育成する。また、すでに就業している生徒も、他職種の体験を通して、より深い自己理解や将来設計について考えさせる。さらに、企業と学校との連携を強化し、生徒の就業の実現をはかる。

2 内容

「職業基礎 B」は、「職業基礎 A」で学習した内容の定着を図るため、実践的な学習を中心とする。実習的な学習や、プレゼンテーション、外部講師を招いての全体学習、就業体験を通して、職場に必要なスキルやマナーを身につけさせる。また、「職業基礎 B」の実践から「職業基礎 A」の内容を見直し、修正を加える。

3 取組

- (1) 就業体験に関する内容
企業研究・企業訪問の心得・勤務中の態度・就業体験・お礼状作成・体験発表
- (2) 職場で求められるスキルに関する内容
電卓実習・ビジネス文書作成の基礎
(ワード・エクセル・パワーポイント)
- (3) 就職活動に関する内容
進路ノートの活用 (自己分析・高校生活の振り返り・履歴書作成・面接練習)
- (4) 外部講師招聘
中小企業家同友会に依頼し5人の社長
(小売業、サービス業、食品製造業、
建築業、土木建設業)とディスカッション。



社長になるまでの苦労や心がけたこと。それぞれの企業が求める社員像、仕事をするということなど講演だけでなく、班に分かれディスカッションした。生徒の中にはある社長の苦労話を聞き、その人の人間性にも惹かれ憧れの眼差しで見ている。また、社長さんの会社では是非働きたいと考える者もおり刺激的な2時間だった。



4 成果

「職業基礎A」で学習した内容を実践する場面がたくさんあり、既習内容の定着を図ることができた。「職業基礎B」の中で実施している実習体験活動では、オープンキャンパス、企業見学、就業体験に88%の生徒が参加した。こうした体験を通して、就職や進学に対する心構えを養うことができ、その実現に向けて前向きな姿勢が身についてきた。また、自分の適性にあった進路選択の大切さを実感し、将来について真剣に模索する生徒も現れている。

昨年度まで昼間仕事（アルバイト等を含む）をしている者が60%程度であったが取組による意識付けが功を奏し、本年度は80%を越えている。

5 今後の課題

本校と企業との連携がまだまだ十分とは言えない。全教員での企業開拓や企業訪問など、学校全体で取り組むことが必要である。また、生徒が多様化する中で、それぞれに合った就業体験先を確保することが難しい。今後は、中小企業家同友会との連携を更に深め、就職活動につなげていきたい。

② 徳島科学技術高等学校定時制課程

○資格取得対策のための参考図書の活用について

1 目的・ねらい

本校は、本県唯一の定時制課程工業科であり、ものづくりの基礎を学ぶ専門高校であるが、就労意識が希薄である生徒も少なくない。そこで、各種資格・検定試験参考図書を購入し、これを用いた補習で資格の取得をさせ、就労意欲を喚起させる。

2 内容

資格・検定・基礎学力向上に関する次の17冊の図書を購入した。

乙種危険物取扱者（2種類）、情報技術検定、日本語ワープロ検定（2種類）、情報処理技能試験表計算（2種類）、第2種電気工事士、2級建築施工管理技士、計算技術検定（2種類）、基礎製図検定、就職面接試験（2種類）、自衛官採用試験、ビジネスマナー。

3 取組

購入した図書を用いて、放課後補習・休日補習を行い、資格取得の学習を行った。

4 成果

各種危険物取扱者に延べ16名，日本語ワープロ検定に22名，情報処理技能試験表計算に17名，第2種電気工事士に1名，計算技術検定に25名，基礎製図検定に7名が合格できた。資格取得がスキルアップに繋がることを実感でき，就労意欲向上に役立った。

5 今後の課題

受験者数がさらに増加するよう，生徒への補習出席の呼びかけを積極的に展開する。今年度はソーシャルスキルトレーニングを実施する機会がなかったが，今後は機会を設けていきたい。

○職場見学会等の実施について

1 目的・ねらい

ものづくりに関係した職場見学をすることで，将来の職業についての展望を抱かせる。また，就職希望者に対して，面談等を通して本人の希望や職業の適性を考慮した上で，企業の求人開拓を行う。その後，求人可能となった企業に職場見学会開催を依頼する。生徒が，会社の雰囲気や仕事内容を十分理解できた上で受験意思を固めることで，就労に向けた意欲向上と離職率の低下を図る。

2 内容

生徒・保護者との面談を通して，希望する業務内容や就労条件等に合致した会社へ職場見学会を依頼し，可能な限り採用試験受験・内定に結びつけられるようにする。

3 取組

- (1) 省力機械・自動組立機械の設計・製作をされているA精工（株）に職場見学会を実施していただき，本校の教員1名と機械工作部員3名が参加した。製作現場や工作機械での部品加工を見学させていただいたことで，工場で働くということを実感でき，勤労意欲を増すことができた。
- (2) 機械コース3年次生の1名が，旅客運送事業のB社に就職を希望し，職場見学会を実施していただいた。そして平成30年9月20日に受験し，平成30年10月2日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (3) 電気コース3年次生の1名が，電気工事業のC社に就職を希望し，職場見学会を実施していただいた。そして平成30年10月17日に受験し，平成30年10月19日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。

- (4) 機械コース3年次生の1名が、車両整備業のD社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年11月16日に受験し、平成30年11月20日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (5) 機械コース3年次生の1名が、製造業E社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年11月20日に受験し、平成30年11月30日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (6) 電気コース4年次生の1名が、自動車用品販売店F社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年12月6日に受験し、平成30年12月6日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (7) 建築コース4年次生の1名が、サービス業G社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年12月7日に受験し、平成30年12月10日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (8) 電気コース4年次生の1名が、鉄工業H社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年12月17日に受験し、平成30年12月17日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。

4 成果

今まで、本校の卒業生が就職したことがなかった7社について、職場見学会を実施することができ、卒業後の進路獲得に役立った。また、加えて進路先の新規開拓として、3社の企業訪問を実施した。

5 今後の課題

今回、生徒が入社する7社について、入社後も引き続いて企業訪問等によって連絡をとり、卒業生の入社後の相談も行っていく。そして、会社と学校でさらなる良い関係を構築し、引き続き求人を獲得できるよう体制を整える必要がある。

③ 富岡東高等学校定時制課程

○購入図書について

1 目的・ねらい

本校定時制には、昼間に仕事やアルバイトをして、実社会で働いている者が多い。その生徒たちも、働いていない生徒たちも、就職活動をする際に、礼儀作法やマナー等をあらためて見つめ直し、自分の中で再整理し、自分のものとする機会となるよう、就職活動に係る参考図書を購入し、就職希望の生徒に活用する。

2 内容

次の図書を購入した。

高校生の就職 2018 書き込み式面接試験合格シート (一ツ橋書店)

3 取組

本図書は、書き込むことで、自分の考えが広まったり深まったりするよう設定されている。その書き込み式の部分を印刷し、プリントにすることで、生徒の就職準備がしやすいものとなった。

4 成果

就職活動を行う最上級の4年生に活用した。

さらに、職員室内の生徒の目に入りやすいところに本図書を配置したところ、4年生だけでなく、職員室に別の用事で訪れた下級生たちも本図書を手にする場面が見られた。その生徒たちが就職活動に取り組むときに何をすべきかの参考になっていた。

5 今後の課題

今回の購入図書を利用して、就職活動時の直接的かつ具体的な対策に当たることができた。しなしながら、生徒ひとり一人の基本的資質に関して、学力、自己肯定感・自己有用感、ソーシャルスキル等を総合的に高めるよう、日々の教育活動がより充実するよう教員は今以上に取り組まなければならない。

④ 名西高等学校定時制課程

○職業体験講座について

1 目的・ねらい

本校の生徒は、アルバイトに従事している生徒が約6割いるが、フルタイムで働いている生徒はいない。就労に対しても積極性に欠ける生徒が少なからずいる。さまざまな職業を体験することで就労意識を向上させる。

2 内容

本校の生徒が将来関わりそうなさまざまな職種のプロを招いてその職業の一端を疑似体験し、職業観を育成するとともに卒業後の進路を考える一助とする。

3 取組

1) うどん実習

日時 平成30年11月6日(火)

講師 吉野川高校教員 3名

4～5名のグループに分かれ、うどん玉を麺棒でのばし、うどん打ち、湯がき、出汁を取ってスープを作る実習をおこなう。盛り付け方や出汁の取り方、作るまでのタイムテーブル、衛生指導、諸経費の計算など、飲食店舗経営の基本を学ぶ。

2) 社交飲食とクリーニング実習 (予定)

日時 平成31年2月6日 (水)

講師 徳島県生活衛生営業指導センター職員

2～3名のグループに分かれ、社交飲食とクリーニングの実習をおこなう。社交飲食ではカクテルづくりやカットフルーツの盛り付け方、クリーニングではアイロンのあて方などを学ぶ。

4 成果

家庭では使い慣れていない、プロが使う調理器具を使い、調理の楽しさや面白さ、また、安全で安心な商品づくりの難しさを体験したり、プロのテクニックを間近で見ることによってその仕事をイメージすることができた。

5 今後の課題

一日で体験できる内容には限りがあり、仕事の全容に触れることはできないが、次年度以降も生徒たちが将来従事するような職種を体験できるよう企画立案していく。

○就職に向けた図書購入について

1 目的・ねらい

従来、本校では卒業後の進路にアルバイトの継続やパートタイム勤務が多く見られた。しかし、近年の求人数の増加に伴い、本校も学校斡旋で就職する生徒が増えつつある。そのため、就職試験に向けての準備をおこなう。

2 内容

一般的な就職試験に関する図書を購入し、生徒の就職希望先に合わせて個別指導で活用する。

3 取組

就職希望の生徒に対して、日々の課題、週末の課題などで就職に関する図書を活用して問題演習をおこなう。就職試験に向けた意識や学力の向上を目指す。

4 成果

本年度、学校斡旋の就職を希望する生徒は2名（卒業生8名）で県内企業と県外企業に就職した。

5 今後の課題

生徒は教養問題の分野に困難を感じている様子であった。3年間または4年間を通じて教養を身に付ける必要があり、早い段階での意識付けをおこなうことで、就職試験に対する準備につなげていく。

⑤ 池田高等学校定時制課程

○職業体験・職場見学・ビジネスマナー講座等について

1 目的・ねらい

社会人・職業人として求められる資質・能力，世間の動向や労働者の権利等の理解を深め，実際の仕事や職場の雰囲気に触れることにより，主体的な進路選択に繋げる。

2 内容

事業所訪問による職業体験や職場見学，アドバイザーによるビジネスマナー指導等を通して，社会人・職業人に求められる知識や心構え，行動規範等について学ぶ。

3 取り組み

◇職業体験・職場見学（老人介護施設，アサヒ，花王，ダスキン）

◇ビジネスマナー講座，キャリア教育講演会

◇ハローワークと連携した生徒の自己実現に向けた支援のための進路ガイダンス

4 成果

老人介護施設や3つの事業所で実施した職業体験や職場見学では就労への動機付け，働く意義等について，ビジネスマナー教室では社会人としてのマナーや心得について意識させることができたことが事業実施後のアンケート結果からわかる。加えて，進路ガイダンスや普段の生徒への働きかけ等の学校全体の取り組みを通して，「働くことに対する意欲」や，「家庭で進路や将来について話す」の値が向上した。

※事業実施後アンケート結果 抜粋

(とても思う+思う)

事業名	質問	肯定的評価
職業体験・見学 介護施設・会社	将来の仕事について考えるきっかけになったか	90% (33+57)
	進路を選択するうえで参考になったか	72% (29+43)
	働くことの大切さについて理解できたか	91% (57+33)
ビジネスマナ ー教室 (2回実施)	積極的に取り組めたか	100% (40+60)
	ビジネスマナーについて理解できたか	97% (31+66)
	社会人・職業人としての心得を考える機会になったか	100% (46+54)
	ビジネスマナーの重要性を認識できたか	100% (43+57)

※学校評価アンケート結果 抜粋

質 問	肯定的評価%→	H30	H29	H28	H27
【生徒】今年度、アルバイトをしましたか。		79	84	72	62
【生徒】キャリア教育を通して、進路決定や働く意欲が高まりましたか。		100	74	78	75
【保護者】学校は、子どもに社会のモラルやマナーを教え、社会規範意識の育成に努めている。		100	94	94	96
【保護者】学校は、就労についての支援をしている。		88	88	100	86
【保護者】子どもは家庭で、進路や将来のことについて話をするようになった。		83	69	41	-

5 今後の課題

就労意欲が低い生徒も見受けられるため、入学後の早い段階で進路ガイダンスや職業体験・職場見学等を積極的に実施し、早期に進路意識を芽生えさせ、自分自身で進路選択しようとする意欲や態度の育成、継続して就労できる忍耐力を育成する必要がある。